

校長室からひがしなら通心

(H29年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 29

平成29年10月19日(木)発行

がんばれ！ゼッケン「67」

今年は、10月9日が「体育の日」でした。平成12年より10月の第2月曜日が「体育の日」となりましたが、以前は10月10日でした。この日は、気象庁の観測史上、全国的に晴れが多い日として、昭和39年に行われた東京オリンピックの開会式に選ばれました。その後、「体育の日」が定められ、日頃からスポーツに親しみ、健康な心身を育てていくことの大切さが叫ばれています。この「体育の日」が生まれるきっかけとなった「東京オリンピック」のエピソードがあります。初めて日本で行われたオリンピックですから、日本中が熱くなりました。東洋の魔女と呼ばれた女子バレーボール選手は金メダルを取り、テレビ視聴率は85パーセントを超えたそうです。男子体操や男子レスリングも大活躍でした。

さて、陸上1万メートル決勝での出来事です。38人中9人が途中棄権するほど、つらい競技です。アメリカの選手が優勝し、競技場に次々と選手が入ってきます。多くの観客が見守るなか、最後のランナーが入ってきました。

「ゼッケン67」、スリランカ(当時のセイロン)のカルナナンダ選手です。1周して、ゴールをしたかと思ったのですが、まだ走り続けています。実は、3周遅れだったのです。最初は冷ややかに見ていた観客ですが、誰もいないトラックを2周め、3周めと脇腹を抱えてゴールするカルナナンダ選手の姿に感動し、優勝した選手以上の大きな声援と拍手が送られました。

恥ずかしい気持ちもあったでしょう。でも、最後まであきらめず、走り続けたカルナナンダ選手は、多くの人々に勝ち負けよりも大切なことがあることを教えてくれました。

レースの後、カルナナンダ選手は、「娘が大きくなったら、お父さんは負けても、最後までがんばって走ったと教えてやるんだ」と語りました。その後、彼は1974年、水難事故により38歳の若さで亡くなったそうですが、オリンピック出場を決めた日に生まれた娘ナムルさんは、看護師として、父の言葉を胸に今もがんばっているそうです。光村図書の中3年の英語の教科書にも「ナンバー67」と題して「ゼッケン67」の英訳文が掲載されています。

スポーツの秋です。スポーツを楽しみ、体も心も鍛えましょう。そして、カルナナンダ選手のように、何事も最後までやり通す強い心を育てましょう。



ひ とつにみんなでまともろう！
が くりょくと体力をのばそう！
し っかりせいかつしよう！
な かよく友だちとすごそう！
ら んらん夢に向かう東奈良っ子！

あ いさつができる子
い っしょうけんめい勉強する子
う んどうが好きな子
え がおでやさしい子
お そうじをがんばる子

「あかりの日」とは、

10月21日は、あかりの日です。これは発明王エジソンが1879年に実用性の高い白熱電球を発明したことにちなんだものです。電球を発明したのはエジソンではありませんが、エジソンは寿命の長い白熱電球を作るために、フィラメントの素材としていろいろ考えました。意外と思うかもしれませんが、なんと京都産の竹を使ったそうです。その後、改良された白熱電球や蛍光灯が使われるようになり、生活は便利になりました。今では、LEDが使われ、発熱も少なく寿命が非常に延び、画期的なあかりができました。

エジソンはアメリカの発明王で、電話機や映画を撮ったり映し出したりする機械、蓄音機(音楽を聞く機械)など、生涯に1300もの発明をしたことにより「発明王」と呼ばれています。エジソンは、小学校で「1たす1は2」と教えられると、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのに2個なの？」と先生に尋ねるなど、授業中に「なぜ？」という言葉をつぶやき、先生に注意されるほどだったそうです。

エジソンの「天才とは、1パーセントのひらめきと99パーセントの努力である」という言葉は有名です。エジソンのような天才であっても、日々の努力が大切であるということです。実際に発明するために、数千回の実験をしたそうです。時には、5万回を超える実験を粘り強く行いました。また、ひらめいたときは必ずメモをして忘れないようにしていたそうです。私たちも見習いたいですね。このように天才エジソンにも苦手なことがあったようです。それは大勢の人前で話をする事です。こんな話を聞くと、「エジソンも苦手なことがあるのだなあ」と、ちょっと安心しますね。

静かな秋の夜に本を読めるのも、音楽を聴けるのもエジソンのおかげです。1879年、エジソンの発明のおかげで、日本でも明治時代後半には電灯が使われるようになり、夜が明るくなりました。電灯がなかった昔は、ろうそくのあかりで夜を過ごしていましたから、どんなにか暗くて不便な生活だったことでしょう。

普段当たり前だと思っていることが、先人の努力とひらめきのおかげだったのですね。だからいつでも感謝の心と物を大切にすることを大切にしたいです。

